

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

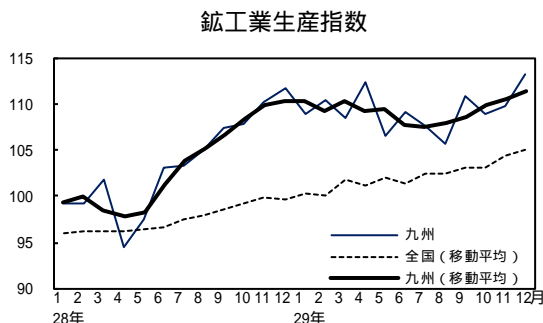
前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)	
鉱工業生産	高水準で推移するものの、一服感	高水準で推移	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

10 - 12 月期には、輸送機械は、普通自動車等が弱含んだことから減少した。電子部品・デバイス、半導体集積回路(CCD・その他)等を中心に増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が堅調なことから増加した。食料品は、増加した。化学・石油石炭製品は、プラスチック等が増加したものの、全体では減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	24.5	0.7	0.8	6.1	3.9	5.4
電子部品・デバイス	12.3	3.2	8.3	2.8	6.4	5.0
はん用・生産用・業務用機械	11.2	4.3	6.7	5.1	2.9	4.5
食料品	9.6	0.6	0.3	3.4	2.1	0.4
化学・石油石炭製品	8.3	6.8	0.3	3.5	1.7	7.8
鉱工業	100.0	1.3	2.4	1.8	0.7	3.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は中心3か月移動平均。

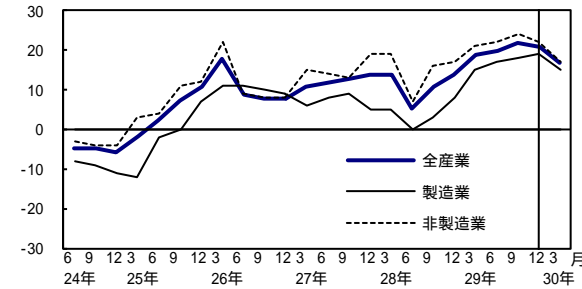
直近月は2か月平均。

(11) 九州

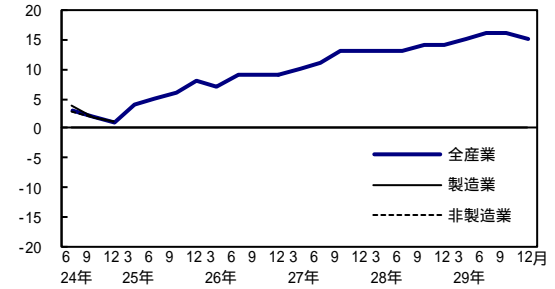
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



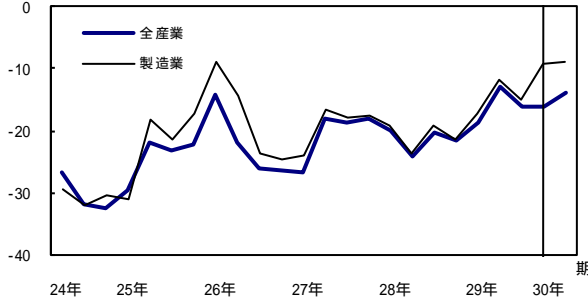
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



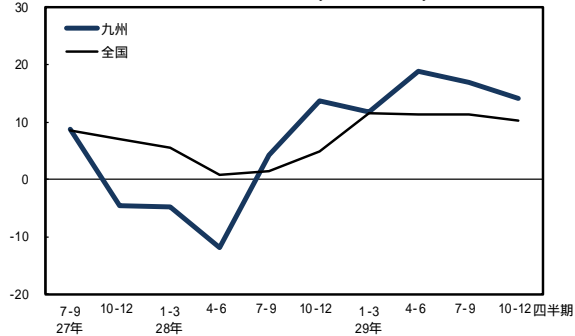
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「店舗からの受注量が前年比105%と雑貨中心に増加している。通信販売の配送も販売額、販売量共に増加している。前年末から好調に推移している(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業	22.8	23.2(2.0)
製造業	34.9	30.0(0.6)
非製造業	5.2	16.2(3.6)

(備考)1.()は前回(9月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

3.沖縄を含む。

(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」
の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月
で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.9%増、11月は同1.2%増、12月は同2.0%減となった。

百貨店・スーパー販売額

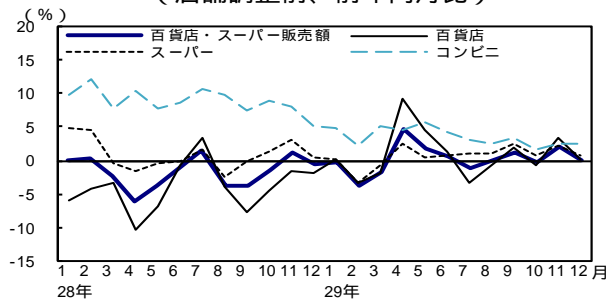
百貨店は、10月は、化粧品、宝飾・貴金属等に動きがみられたものの、婦人・子供服・洋品等の衣料品や、鮮魚等の飲食料品の動きが鈍く前年を下回った。11月は、気温が低めに推移したことから衣料品等に動きがみられたうえ、地元プロ野球チームの優勝セール等により全ての商品に動きがみられ、前年を上回った。12月は、衣料品や飲食料品等の動きが鈍かったものの、化粧品、宝飾・貴金属等に動きがみられ、前年を上回った。

スーパーは、10 - 12月期は、飲食料品等に動きがみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

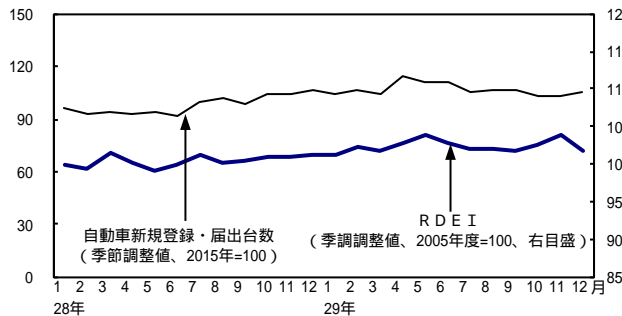
「回転率を上げるため商品量が前年より減っているため、セール品の在庫が非常に少なく、セール売上が前年より減少している (衣料品専門店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.9	0.9	1.2	2.0
百貨店・スーパー(*2)	0.5	0.4	2.1	0.1
百貨店(*3)	0.9	0.7	3.4	0.2
スーパー(*3)	1.2	0.7	2.2	0.8
コンビニ(*3)	2.2	1.6	2.4	2.5
乗用車(*4)	1.2	0.9	1.3	1.5
(季節調整値)(*4)	2.1	3.5	0.9	1.6

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

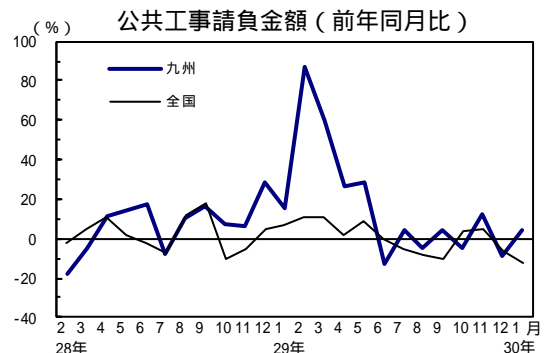
・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

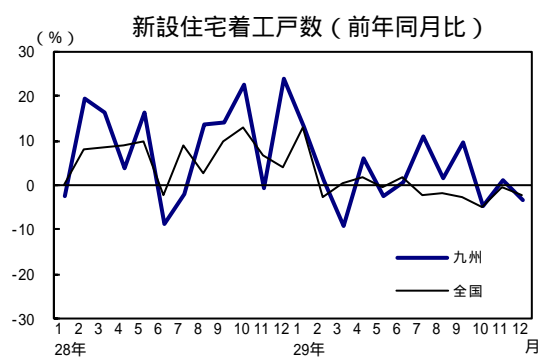
(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

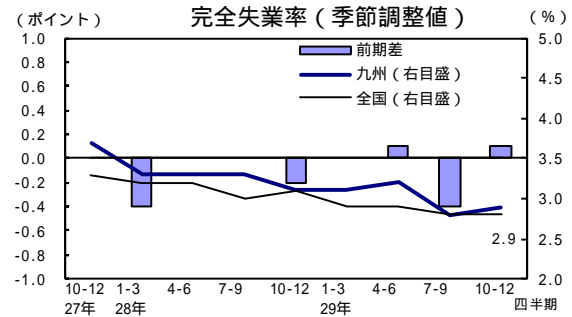
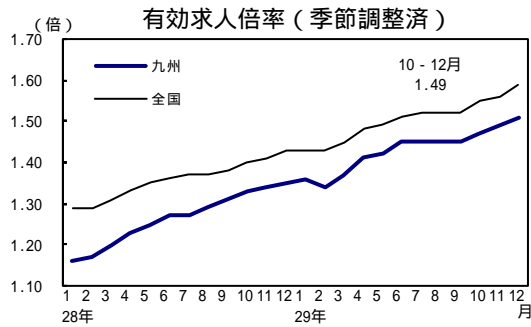


(11) 九州



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率等
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



（備考）内閣府にて季節調整。

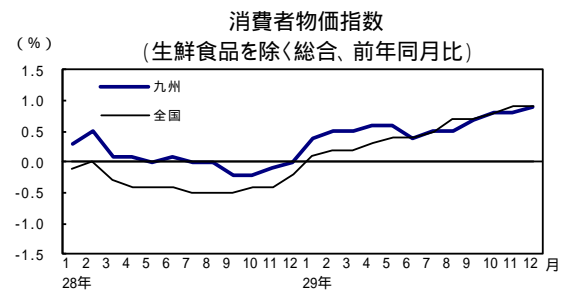
景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[雇用関連（現状）]
「引き続き求人数の増加がみられ管内の有効求人倍率も高い水準で推移している（職業安定所）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばいとなっているものの、負債総額は増加している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	128	128	119	137	44
（前年比）	15.2	12.3	21.2	3.0	4.3
負債総額	326	264	114	205	39
（前年比）	17.6	2.6	70.5	51.8	56.5



景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・外国人観光客による購買は好調だが、国内の団体客の入込が鈍くなっている（都市型ホテル）

<先行き>

- ・高所得者層、外国人観光客の消費は続いて伸長しており、全体の売上は増加しているが、中間層の消費は大きくは伸長しておらず楽観視はできない（百貨店）

